

学校運営協議会（第2回） 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加茂高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和6年12月5日（木） 15:00～17:00
- 3 開催場所 加茂高等学校同窓会館2階会議室
会議開催前、委員による授業参観（全日制）を実施した。
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|--------------------|
| 副会長 | 松井彰良 | ウインズコーポレーション 代表取締役 |
| 委員 | 今井一彦 | 司法書士 |
| | 尾関里佳 | 地域代表 |
| | 迫田直美 | 定時制教育振興会長 |
| | 松尾和樹 | 可児市議会議員 NPO法人縁塾 |
| | 武市由紀子 | 元特別支援学校校長 |
| 学校側 | 森川賢二 | 校長 |
| | 高水正明 | 副校長 |
| | 庄司幸宏 | 教頭 |
| | 松久潤 | 教頭 |
| | 津田健介 | 教務主任（全日制） |
| | 水口智人 | 生徒指導主事（全日制） |
| | 上野智子 | 進路指導主事（全日制） |
| | 伊藤強 | 事務部長 |

5 会議の概要（協議事項）

(1) 令和6年度学校評価集計結果及び分析について（全日制・定時制）

全日制・定時制とも、学校評価アンケート（全日制：10月実施・定時制：7月実施）の結果に対して、学校運営協議会委員からご意見をいただき、学校から提案したスクールミッション（案）について、慎重審議を行った

【全日制】

- ・令和6年度学校評価集計結果及び分析
- ・スクールミッションについて

質問1：学科改編により、学校はどのような方向に向かっていくのか。現在、どのような計画で進んでいるのか。

⇒「探究を柱とした進学型の新しい普通科」としての「文理探究科」を目指している。「探究的な学び」の充実を図り、かつ伝統的な理数科及び普通科の実績を継承した学科にしていく。現在、プロジェクト会議を中心に、次年度以降の探究科目の進め方や評価等について、検討を続けている。

質問2：スクールミッションは誰に対して出すものなのか。スクールポリシーとスクールミッションの違いはなにか。

⇒スクール・ミッションは学校の存在意義や地域等から期待されている社会的役割、目指すべき学校像を明確化したものであり、スクール・ポリシーはその学校像を達成するための学校の教育活動の方針を示したものである。スクール・ミッション策定後はスクール・ポリシーとともにホームページ等を使用し、学

校外へわかりやすく示していく。今後、「探究的な」というキーワードを入れて改善していきたい。

意見1：小規模な学校であれば少人数指導が可能であり、「誰一人取り残さない」の部分について理解できる。しかし、このままでは加茂高らしさが伝わらないので、「探究活動」の文言を入れたほうがよい。

意見2：社会的な役割を示すのならば、文章は短く分かりやすいほうがよい。しかし来年度、文理探究科になるため、「探究」という言葉を入れたほうがよい。

⇒本校でも悩んだ部分である。「探究」の文言は入れていきたい。

意見3：情報が少ないと、保護者や地域は不安に感じる。生徒や学校に関する情報を積極的に発信することが学校の教育や取り組みに対する理解につながると考える。

【定時制】

・令和6年度学校評価集計結果及び分析

・スクールミッションについて

意見1：スクールミッションについて、「個に応じた」という表現に加えて、「個に応じた幅広い知識や教養を」としてはどうか。

⇒意見を参考に作成していきたい。

質問1：保護者が生徒の学校での様子について理解していると思ってよいか。

⇒保護者に懇談や連絡を通じて、生徒の学校生活について伝え、理解していただいていると考えている。それは学校評価アンケートの結果からも伺える。

質問2：外国籍の家庭が地域社会と関わり、コミュニケーションをとることが大切ではないかと考えられるが、高校生のコミュニケーションスキルを高めるような活動はありますか。

⇒昨年度までも普段の授業や様々な行事を通じて取り組んできているが、今年度新たに「演劇ワークショップ」という行事を実施できることになった。今年度3回計画され、本日がちょうど3回目である。東京から文学座の西川先生を含めた3名の講師に来校していただき、毎回異なる活動を通じて、人を信頼するとはどういうことか、またコミュニケーションの取り方で重要なことは何かなど、この体験から生徒自身が実感し、気づくことができる内容になっている。

質問3：定時制の部活動の実績はどうか。

⇒どの部活動も短い時間で精一杯取り組んでいる。今年度はバスケットボール部が全国大会ベスト16に、バドミントン部は岐阜県代表に選抜された生徒が全国大会で試合に出場するなどの成果がみられた。

(2) 地域探究活動「地域の大人と語る会」及び「地域課題研究」について（全日制）

総合的な探究の時間の一環として実施した「地域の大人と語る会」（第1学年）の授業参観の後、第2学年で実施されている「地域課題研究」を含めて内容等の説明をした上で、学校運営協議会委員からご意見をいただいた。

意見1：地域の方々の意見を聞くよい機会となっている。大学への進学も大切なことであるが、これからはそれに加えて、社会貢献や地域貢献ができる人材になることが求められている。さらに自分の生き方を考えられるようになって欲しい。

意見2：高校生のキャリア教育はとても大切であり、自分らしくどう生きるか、また将来を見据えて地域の方とどう接するかという観点から、今回のような取り組みは大切であると感じた。今後も続けて欲しい。

意見3：「地域の大人と語る会」（第1学年）は、加茂高らしいすばらしい活動だった。マスクをしている子が多いので、マスクをとれない子がいるのか気になった。鞆が大きく、毎日運ぶのは大変であり、安全面の心配もある。必要なものを必要なだけ持ってくる力をつけることも大切であると考えている。

意見4：生徒はとても集中して取り組んでいた。進学校で勉強ばかりでなく、専門的な興

味がある分野について、話を聞いて発表する場があることはとてもよい。

意見 5：工事の影響のなか教室が少し暗く感じた。光が入るともっと生徒が元気になるのではないか。地域との連携事業が長年続いているが、教室内での活動に限らず、地域の活動にどんどん参加して、地域社会のことを学んで欲しい。

意見 6：実施 6 年目になるとのことだが、地域社会との連携やつながりを大切にし、ぜひ、生徒の皆さんに地元で活躍する人材になってほしい。

意見 7：今後の文理探究科での学びの中で、「地域の大人と語る会」のような地域と連携した事業が果たせる役割は大きい。「地域の大人と語る会」の講師の方も、もっと長期的に加茂高校に貢献したいと思ってみえるので、学校の情報を積極的に発信すると協力を得られると考える。

(3) まとめ

第 2 回学校運営協議会では、スクールミッションの策定を中心に慎重審議を行い、多くの貴重なご意見をいただいた。また本校全日制の「地域探究活動」の委員による参観では、活動に尽力いただいた地域の講師の方と意見交流をする時間がとれるとよいと感じた。探究活動をしっかり取り組んだ生徒は、主体的な姿勢をもち、自ら考え、判断・表現ができる力を身につけていくと考えられる。「地域探究活動」については、令和 7 年度から始まる文理探究科の学びの中にも十分に生かされる取り組みである。また、令和 6 年度の学校の様子を説明するとともに、学校評価アンケートの結果から様々なご意見をいただいたので、今後の教育活動に生かしていきたい。引き続き、今日求められている「自ら課題を見つけ、皆と協働し、課題解決にあたれる人材」となれる生徒を育てていきたい。